

地域SNSを活用した住民参画の促進

地域SNSひよこむ運営委員会 和崎 宏
地域SNSさよっち運営委員会 久保正彦
兵庫県県民政策部政策局地域振興課課長補佐○行司高博

1.活動方針

兵庫県では、県民と行政が協働し、地域SNSの実証実験事業を行っている。

地域SNSには、知らない人をつなぐだけでなく、交流を通してつながった人同士の関係性を強化するという特徴がある。ネット上の空間と実際の地域社会を連動する仕組みを構築することができれば、地域から消えゆくとしている「人のきずな」を再生・強化することができるのではないかと考え、コミュニティ活動を支援するためのツールとして、民間、行政の協働型のプロジェクトとしてはじめたものである。

現在、「ひよこむ」(県内全域)、「いたまち」(伊丹市)、「さんでい」(三田市)、「さよっち」(佐用町)、「HOT ささやま」(篠山市)の5つの地域SNSが連携しながら、住民と住民、住民と行政をつなぐ新しいコミュニケーションツールとして地域SNSを活用し、地域コミュニティ活動の活性化、ツーリズム振興などに取り組んでいる。

2.活動内容

地域SNSは、この1～2年間にうちに急速に広まり、現在、全国約300の地域で地域活性化の手段として用いられるようになってきている。

兵庫県内を基本的な活動単位にした「ひよこむ」は、開設以来、1年半で、会員数が3,500人を突破するなど、他の地域SNSに比べても、驚異的なスピードで会員を増やしていることから、全国的にも注目を集めている。

地域SNSが、全国展開されているMIXIなどのSNSと大きく違うのは、実名登録制(実名でないと登録できない)、完全招待性、後見人制(トモダチを招待した人はサポートの義務を負う)を徹底し、安心して参加できるシステムで運用していること、あわせて、地域づくりに取り組む意識の高い人たちが集まることで、インターネット上だけの関係ではなく、実際に地域になかで活動の羽が広がっていくことにある。また、会員からの書き込み(要望)に応じて、機能が追加されるなど、すばやく会員の声が反映される仕組みが整えられていることは、巨大サイトにはできない特色でもある。

(活用事例)

○地域の防災・防犯情報

火災、ひったくり、子どもへの犯罪などのコミュニティマップへの表示

○阪神淡路大震災の追悼

1・17 メモリアルウォークをはじめとした追悼行事の様子を一人ひとりが携帯電話を利用して報告
(災害時の携帯メール、写真の利用などの訓練も兼ねる)

○行政と住民の対話

行財政改革などについて議論

○コウノトリのヒナの様子を写真・動画で日々報告

○地域の新しいグルメ「姫路おでん」の普及PR活動など

3今後の課題等

- ・地域SNS間の連携をめざして、ひよこむのエンジンである「Open-SNP」と他のエンジンとの連携を進めており、数年後には、日本中の地域SNSの大半が連携される仕組みが構築されることとなっている。
- ・地域SNSの特色を活かして、カーナビシステムへのリアルタイム情報、口コミ情報の書き込みなど、観光面での活用にも取り組みは始めている。
- ・地上デジタル放送を控え、地域SNSを連携媒体にして、インターネットとデジタルテレビをつなぐ実証実験を進めることで、パソコンが扱えなかった人たちへの情報発信に新しい手法を提案できる可能性が高まっている。

関西元気な地域づくり発表会

地域SNSを活用した住民参画の促進

2008年3月17日

兵庫県県民政策部政策局地域振興課
課長補佐 行司高博

地域SNSが生まれてきた背景

Mixiの普及

現在、1000万人を超える登録者
若者(大学生)のほとんどが利用



ごろっとやっちろ誕生

日本ではじめての地域SNS
2004.12 熊本県八代市
市役所のホームページのアクセス数が飛躍的にのびる



ひよこむ誕生

実名登録制 完全紹介制 後見人制

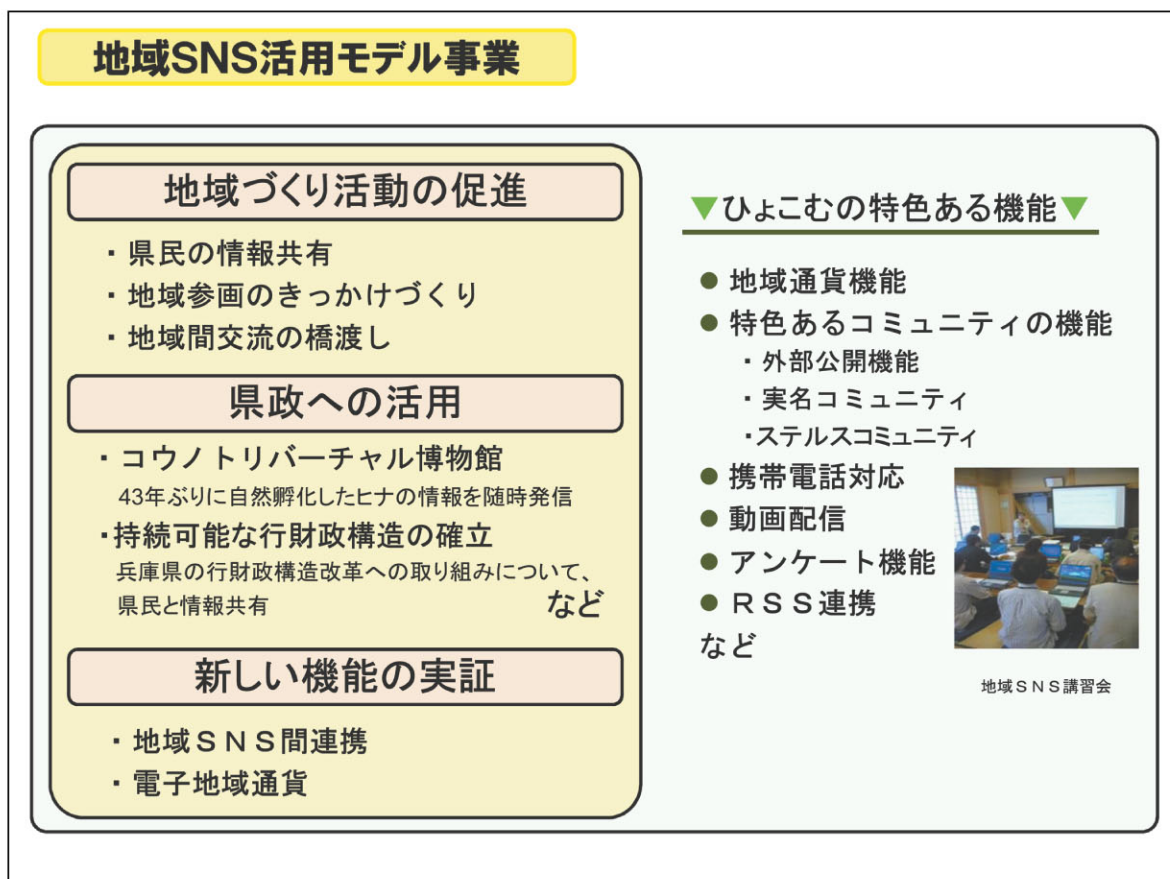
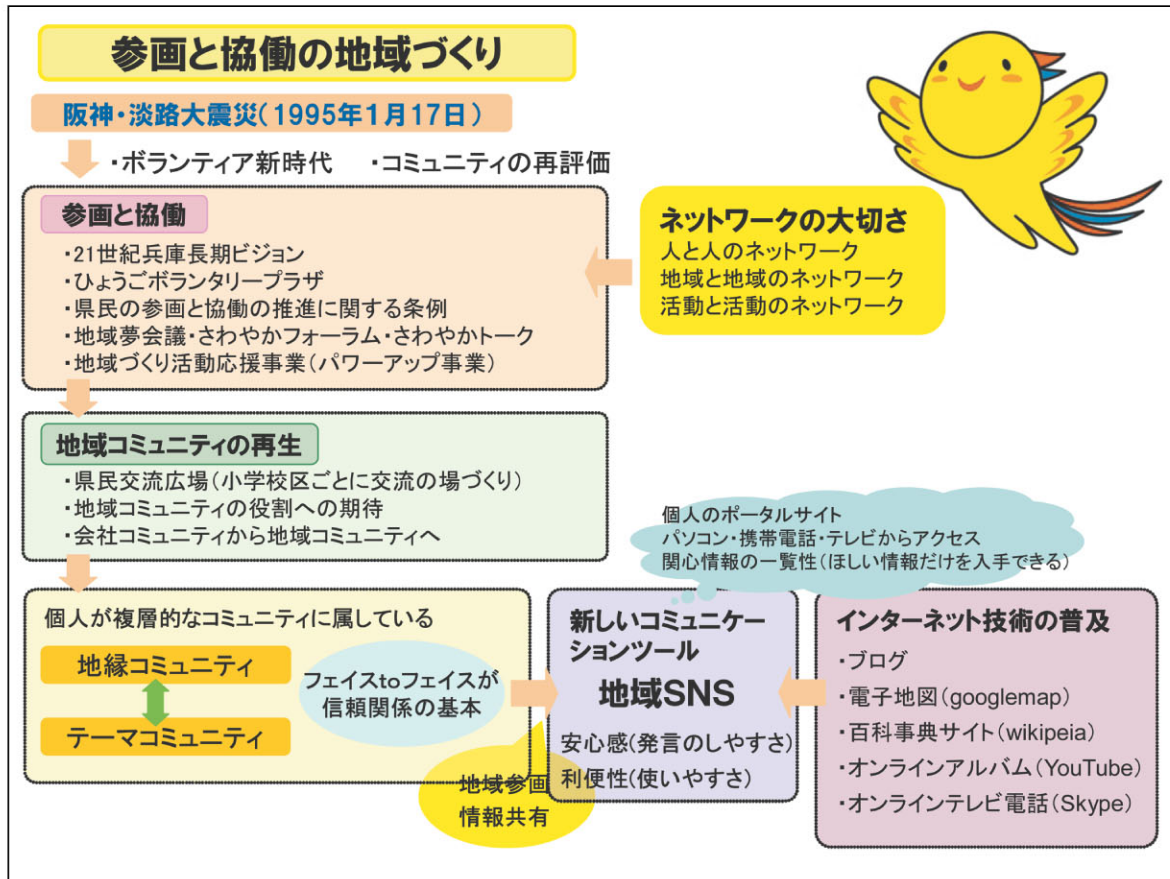
アクセスコントロール(公開範囲の選択)
自らの関心事をマイページで一覧できる
多様な機能を集約できる(掲示板、ブログ、地図)

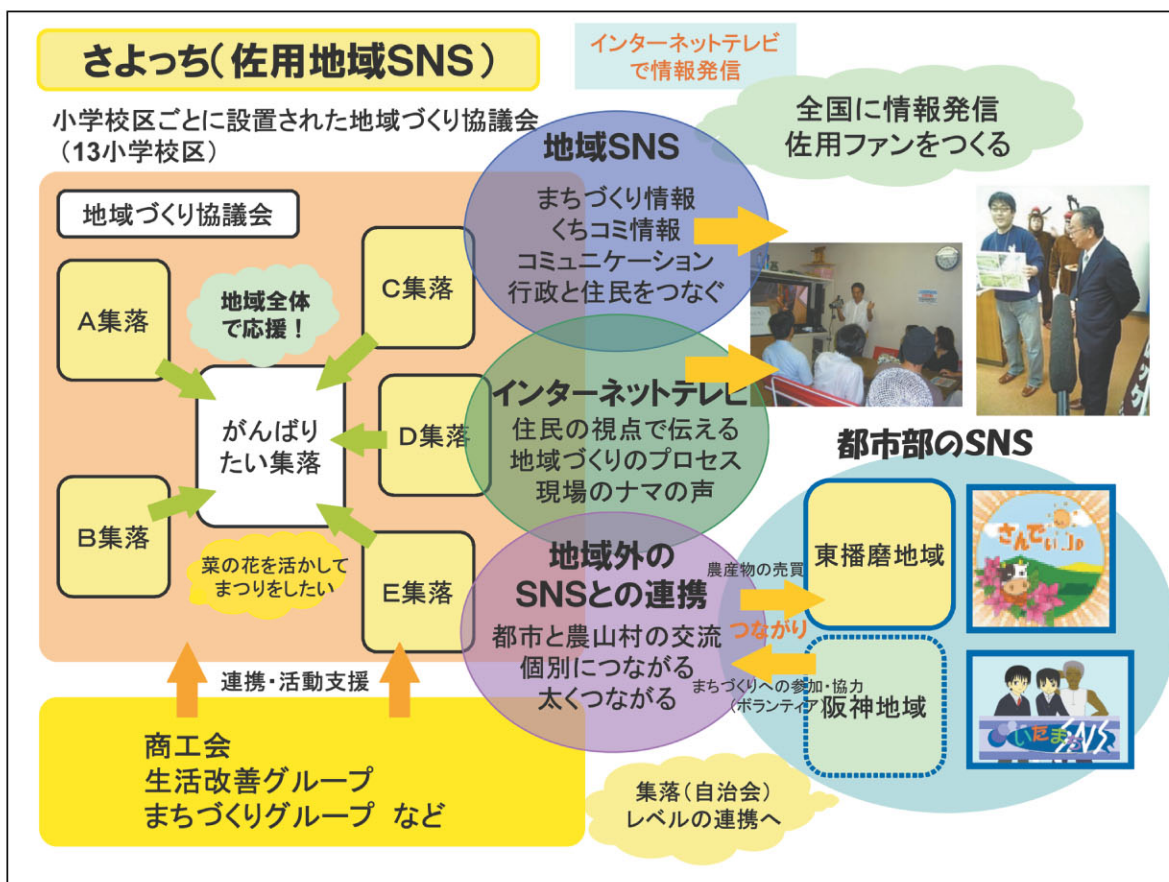
地域SNS全国フォーラム

2007年8月 兵庫県
2008年2月 横浜市

地域SNSは新しい時代に







いま地域は...

地域がかかえる課題

- ◆担い手が減少
 - ・高齢者世帯の増加
 - ・独身者の増加
 - ・若者の流出
 - ・地域のにぎわい低下
- ◆集落空間が劣化
 - ・空き家の増加・荒廃化
 - ・遊休農地の拡大
 - ・人工林の荒廃
 - ・獣害の拡大
- ◆集落機能が低下
 - ・つながりの希薄化
 - ・コミュニティの弱体化
 - ・共同作業の維持困難
- ◆生活が次第に困難に
 - ・医療機関の遠隔化
 - ・不便な買い物
 - ・地域産業の衰退傾向

対応方向

- ◇交流を活発にする
 - ・都市・農山漁村の交流の展開
- ◇地域の団結を強める
 - ・支え合うコミュニティづくり
- ◇地域資源を活用する
 - ・地域資源の再発見と発信
- ◇支える仕掛けをつくる
 - ・アドバイザー、ボランティアなどの協力

いまできることは...

- ◇交流を活発にする
〈都市・農山漁村の交流の展開〉
 - ・交流(都市側)のパートナーづくり
 - ・空き家などの既存施設を交流拠点に
 - ・農産品・木材などの販路拡大
- ◇地域の団結を強める
〈支え合うコミュニティづくり〉
 - ・近隣集落との結びつきの強化
 - ・支え合いの仕組みづくり
- ◇地域資源を活用する
〈地域資源の再発見と発信〉
 - ・地域の将来像・方向性を見いだす。
 - ・地域資源の情報発信
- ◇支える仕掛けをつくる
〈アドバイザー、ボランティアなどの協力〉
 - ・外部の目でアドバイスできる人をつくる
 - ・ボランティアとの連携(古民家改修、森林)

使えるのではないかな？

地域SNS

都市と農山漁村をつなぐ**コミュニケーションツール**
農山漁村の地域情報化を支える**サポートツール**

情報を発信するのは、
地域住民自身

コミュニケーション機能
インターネットテレビ
～住民がつくるテレビ局～
観光情報〈カーナビ連携〉
田舎暮らし情報
地デジテレビとの連携
特産品販売(モール)